

第6回 フリートークの会

平成18年9月12日 出席者6名

院長 今日ちょっとこちらの患者さんの症例を見ていただきたいと思います。この方は30代の方で、乳がんの再発、骨への転移、肺転移、皮膚転移という経過なんですね。乳房温存手術を受け放射線治療、その後反対の乳房に転移し再び温存手術、またもとの乳房に転移。数々の抗がん剤を投与され、最後の薬が効かないということで放り出されてしまったんですね。それでこちらに来られたんですが、ほとんどの抗がん剤を使ったということでしたが、まだ使っていない抗がん剤があったので、それを組み合わせて使ってみたところ効果があった。患部が浸潤して出血もしていて自分でガーゼをあてて手当してたんですね。当然お風呂にも入れない。それがよくなってきてガーゼをあてなくてもよくなり、入浴も出来るようになりました。乳房温存手術は適応をよく考えてやっていかなければいけないということですね。患者さんがして欲しくても避けた方がいいかもしれませんし、かといって温存だからダメということも言い切れない。最後は医師の判断次第というか・・・医師の判断と感覚というか・・・女性には女性の価値観がありますよね。卵巣を取ると男みたいになっちゃうと思っている方もいます。本当はそんなことはないんですが、子どものいない方で卵巣がんになった場合は深刻です。「死んでもいいから子どもが欲しいから取らないでくれ」と。ステージ3で、それでも残してくれという方もいますが、そうしたら命にかかわります。それを説得するのは難しいですね。女性としての生きがいというものを奪ってでも医療サイドの考えを通していいのか、難しいところですね。乳房温存は若い方ほど望みますしね。

Aさん こんな風に先生に直接話しができる場があるってことはホントにありがたいですよ。なかなか自分の主治医にだって話せないこと一杯ありますもの。

Bさん 私の場合は、主治医が開業したのでついてきたんです。でもなんか距離がある感じがして、もっとこう話したい、もっと聞いてもらいたい、だけど先生に嫌われたくないという思いがあります。

院長 患者さんは非常にセンシティブになっているんですね。それをドクターが理解しないと根本的にいけないと思いますね。私たち婦人科医は女性の病気を診ますが、男性なのでやはり女性のことで分からない部分もあるんですね。男と女では根本的に違うんですね。その前提に立った上で患者さんの気持ちを理解するようにしていかなければいけないと思いますね。

Cさん 先生、再発するしないの差はどこからくるんでしょうか？

院長 う～ん、そうですね～・・・。病気に立ち向かうという気力は必要だと思いますね。私の母も、私が高校2年の時に乳がんで手術をしたんですが、手術したその日に抱えられながら帰宅してきましたね。その後、日本舞踊を始め、名取にまでなったりして・・・すごい気力ですよね。我慢強い人でしたね・・・。その母のことがあって婦人科医になろうと思ったんですけどね。

Dさん 私は、少し具合が悪くなると「がん?」「再発?」って思っちゃうんですよね。

Cさん 治ってからのほうがしんどいですね。再発が怖いという気持ちにとらわれて苦しい。

Bさん Dさん、1年ぐらいだとまだそうかもね。5年くらいたつとふっ切れて薄れていくわよ。

院長 副院長はストレスケアが専門ですから、いろいろ質問してください。

Dさん どうしても病気のことばかり考えてしまうんですよね。生きることに對する執着心がすごく出てくるといふか、気持ちの浮き沈みが激しいんですよね。ホルモン剤の副作用かもしれないんですが、うつ状態になってしまうとホントに辛くて……。友達と話していても、そんな風に考えない方がいいよって慰められるんですけど。ストレスって免疫力を下げるといふじゃないですか。だから良い考え方をしなければいけないと思うんですけど……。

副院長 ストレスっていふのは女性のすべての病気の根本にあるんですね。ストレスはホルモンや神経、そして大切な免疫系を支配する中枢神経系に影響を与えますからね。同じような心理状態にある人と話をしてもあまりいいことはないですね。お互い慰めあつて終わりにするのではなく、一段上を行っている人を目標にしてみてもどうでしょうか。いい方向に行っている人はどのようにしてそうなつたか。インターネットの書き込みなんかを見ても、よくなりましたといふ体験、1つとして同じものはないじゃないですか。山登り、踊り、ウォーキング、野菜ジュース、etc. いろんなことを皆さんやつて明るく楽しく人生を送っているじゃないですか、ね。自分なりの明るく考えていける何かを見つけてそれを続けてみてはどうでしょうか。

Cさん 年を取るとがんの進行が遅くなるといふのは本当ですか?再発も少ないって。私早く年取りたいんですけど(笑)

院長 (笑)それはないですね。若い人が罹つて進行の早いがんといふのはそういう種類のがんなんですね。そういうがんになつた人が罹つたからといふて進行が遅くなるといふことはないですね。